

奈良市教育振興基本計画（案）に対するパブリックコメントの結果について

奈良市教育振興基本計画（案）につきまして、市民の皆様からの意見を募集しましたところ、8件の意見をいただきました。ご提出いただきました意見の概要と、それに対する奈良市教育委員会の考え方を公表します。

◇意見募集期間

・平成27年11月19日（木）～平成27年12月10日（木）

◇意見提出状況

- ・意見の提出件数・・・8件
- ・意見の提出者数・・・4名

◇意見の概要及び教育委員会の考え方

奈良市教育振興基本計画（案）に対して、ご提出いただきました意見は、施策に関して賛同するもので、全体の構成及び内容に関して修正や改善を求める意見はありませんでした。これらの意見に対する教育委員会の考え方を示させていただくとともに、個々の感想を紹介します。

意見の概要	教育委員会の考え方
<p>施策に賛成の立場です。</p> <p>ジュニアインターンシッププログラムでは、現在のところ従来の地域コーディネーターの方の協力を得て進めているようですが、今後は、キャリア教育に特化して支援していただけるコーディネーターを配置してはどうでしょうか。</p> <p>ただ、その場合、その役割を含め、専門的な内容を学べる研修の場が必要だと感じているので、「手引き」と合わせて研修の体制を整備していただきたいと思います。</p>	<p>関連ページ：P23「基本方針2（4）キャリア教育」</p> <p>今年度からモデル校において取組を始めた「ジュニアインターンシッププログラム」では、生徒が探求的な課題を設定し、職場体験学習に取り組んでおり、その事前・事後の学習も含めて、地域コーディネーターの協力を得ています。今後、モデル校での成果と課題を検証しながら、当プログラムの実践に特化したコーディネーターの位置づけについても検討を進めます。</p> <p>また、「キャリア教育の手引き」は、教職員向け資料として作成を予定しておりますので、コーディネーターを対象としたキャリア教育の研修については、別途検討します。</p>
<p>施策に賛成の立場です。</p> <p>特に本市には現在設置されていない中学校の通級教室が必要ではないでしょうか。</p> <p>また、教室の設置に向けて運用方法の検討、専門性を有した担当者の育成や施設・備品整備の予算の確保も必要だと思います。</p>	<p>関連ページ：P30「基本方針3（1）特別支援教育」</p> <p>より多くの児童生徒が継続した支援を受けられるよう、県と連携し中学校への設置をめざします。</p>

意見の概要	教育委員会の考え方
<p>施策に基本的に賛成の立場です。</p> <p>ただ、学校教育としての幼児教育の充実を目指すためには、保育教諭等の研修や研究を、小学校教育への接続も考えて実施すべきであると考えます。</p>	<p>関連ページ：P36「基本方針3(7) 幼児教育」</p> <p>これまでのカリキュラムを、発達の段階をおさえた保育内容や指導方法、小学校との円滑な接続などの観点から見直した「奈良市立こども園カリキュラム」(平成27年度策定)により、教育・保育内容の一層の充実を図っています。</p>
<p>発達障がいを持つ子どもの母親の立場から、コメントを書かせていただきます。</p> <p>拝見させていただき、ひと昔前より、相談、診断から就学、幼小中の連続した支援体制が整ってきているようで大変嬉しく感じます。</p> <p>10年前のわが子の時は、小学校から中学校、高校(養護学校)と先生方の引継ぎがなく、保護者が伝えるのみでした。しかし、学校での集団生活の様子や必要な支援や配慮は学校が一番把握されていることなので、ぜひ小中高の連続した支援(担任の先生同士の引継ぎ)をしていただけることをお願いします。</p>	<p>関連ページ：P30「基本方針3(1) 特別支援教育」</p> <p>異なる学校種間では、こども園・幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校の連絡会や体験入学などを通じて、特別な支援や配慮が必要な幼児児童生徒への支援内容について情報共有を図っており、今後も、各校園や関係機関との連携体制を一層充実させます。</p> <p>また、就学前から学校卒業までの長期的な視点で、一人一人に応じた支援を行うための「個別の教育支援計画」を各校園で作成しています。これを、進学や転学時の引き継ぎにおいて有効に活用し、きめ細やかな支援が一貫して行われるよう取組を進めています。</p>
<p>最近ではいじめの問題が各地で取りざたされています。奈良市の子どもたちの命を守るために、小中学校の生徒指導の充実を図るとともに、学校を支援するプロジェクトの充実をお願いしたいと思います。</p>	<p>関連ページ：P32「基本方針3(3) いじめ対策・生徒指導」</p> <p>いじめの問題については、学校が主体となって未然防止や早期解決する体制づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域と連携した対応を行っています。</p> <p>また、警察や校長のOB、弁護士、医師と連携した学校支援も行っています。</p>
<p>家庭教育はすべての教育の出発点であるということはその通りだと思います。家庭教育充実のためには、支援だけでなく親同士情報を共有したり子育て(親としてどうあるべきか)を学んだりする機会が必要だと思います。</p>	<p>関連ページ：P51「基本方針5(4) 家庭教育」</p> <p>平成25、26年度に文部科学省の委託事業として、公民館を拠点として、ライフステージに応じた家庭教育に関する課題を抽出し、それぞれの課題解決に向け話し合う仕組みを構築しました。</p> <p>今後は、この事業が市域全体に広がるように推進を図ります。</p>

感想や思い

「子どもが育てば、町は育つ」とあるCMのコメントがあります。今、本当にそうだと感じています。

私は、わが子が卒業した小学校にある「放課後子ども教室」でボランティアをしています。奈良市の「放課後子ども教室推進事業」は子どもの安心安全な居場所づくりとお聞きして、地域の大人としてやりがいをもって参加させていただいていますが、それよりも私自身、一人息子が成人になり巣立ったあとのぼかりと空いた母の心を小学生たちが埋めてくれていることに感謝しています。

そんな私は、以前、わが子が学校を卒業すればもう教育問題は関係ない話題と感じていましたが、「放課後子ども教室」にかかわることで、実は自分の町の将来にかかわることだと気が付くことが出来ました。

「子どもが育てば、町は育つ」です。子どもには学校の勉強だけではなく、地域の大人が子どもを見守り育てる、地域の教育力が必要性です。これは継続しなければなりません。

だからこそ、コメントを書かせていただきます。今、参加しているボランティアは、経済的にも時間的にも比較的余裕がある方がほとんどです。新しい方はお声をかけてもなかなか入っていただけません。それは働いている方が多いからです。専業主婦が減り、夫婦共稼ぎが当たり前になっているし、今後は年金受給開始も遅くなり、ますます働かなければならない人が多くなります。10年20年後、今の30代40代の方々が私たちの後を引き受けてくれる人はいるのでしょうか。

私の願いは、この奈良市の「地域学校連携」は学校教育も地域教育も子どもの育ちに大きく役立ち、地域社会を成長させる取組だと肌で感じているからこそ、先を見据えた、長く継続できる仕組みにさせていただきたいと願っています。宜しく願います。

奈良市教育振興基本計画を拝見いたしました。「教育は国家百年の計」といいますが、刻々と変わりゆく社会情勢を考えると1～5の基本方針はどれも大切なことだと感じました。特に「奈良らしい教育」については奈良で学び、奈良に学び、そして奈良で生きること誇りをもつことができる、そんな教育になることを期待します。

世界遺産学習はただ世界遺産を学ぶだけでなく、世界遺産を通して何を学ぶのか、それはまさしく変革する社会を生き抜く力であり、奈良の素晴らしさを世界に発信する力となると考えます。そして、学んだことは奈良に留まることなく、自分が住むこの国に誇りをもつ子どもを育てることに繋がるのではないのでしょうか。

また、奈良市の教育目標のひとつである「キャリア教育」ですが、「奈良市キャリア教育の手引き」ができると聞きました。とても楽しみにしています。子どもたちが将来に夢をもてるように、またしっかりとしたキャリアデザイン（人生設計）が描けるようなキャリア教育が手引きによって進められていくことを期待します。5年後には大学入試制度改革が行われますが、奈良市が行なうキャリア教育が子どもたちの人生設計に繋がるよう進めていただければと思います。

これらの教育を実現するために、今年度から全市展開されている小中一貫教育が効果的に進められていくことを期待するとともに、今回の基本計画が10年後、50年後、100年後の奈良、そして日本を支えていく子どもたちの力になることを願っています。

ありがとうございました。